

社会福祉法人天上会 広報誌
2019年 秋号

ひろば



理事／評議員紹介

「就任挨拶」

令和に入ってすぐ、前田理事長と倉常務理事に会う機会があり、そこで天上会の役員の状況や施設の状況などを説明を受けました。数日後、理事長から理事就任依頼があり、お引き受けすることになりました。

社会福祉法人天上会の名称は記憶していませんでしたが、新樹学園については福祉の仕事に長年携わってきた関係で知的障害児施設の頃から知的障害者更生施設に移行後も、よく存じておりました。その頃は施設数も少なかったように記憶していますが、大きな発展を遂げられ、理事を引き受けるにあたり身の引き締まる思いです。

平成9年に老人の自立を目的に介護保険法が制定され、遅れること9年後の平成18年4月障害者が健常者と同じように暮らせる社会を目指して障害者自立支援法が制定され、老人の施策もそうですが、障害者の施策も大きく様変わりしました。それ以前は施設に入所するとなると、まず、居住地の市町村に申請をして、順番を待って入所していました。これを措置制度と言いますが、それが個人との契約へと変わったことが大きな変更だと理解しています。しかし、この障害者自立支援法も問題点が多く、その後、障害者総合支援法が制定されていますが障害者自立支援法について、どんな問題点があったかなどわからず、勉強不足を痛感しているところです。

「そこには愛ある暮らしが…」

今年の三月始め、理事長から評議員を引き受けてもらえないですか?と問われました。

私の長男は入所でお世話になっています。親には出来ない支援の数々。心から感謝しています。

障がいのある子供の人生は、どうしても福祉に頼らざるを得ません。そのお陰で親の暮らしも成り立っていることを考えると出来るだけの事は頑張ろう!!と日々思っていましたので、迷いもなく「はい。」と答えました。とはいうものの「評議員とは?」ということになりますと何も判ってはいませんでした。

検索してみると、大変に責任の重い役目であることがわかり、急に緊張してきたのを覚えています。これまで長男の所属している入所のことしか知らなかったのですが、評議員会では、社会福祉法人天上会の事業のすべての働きに接することになり、一人ひとりの障がいへの支援の形を知る事になりました。と、同時に職員の皆様の御苦労、心労も推察できる機会ともなりました。

理事 相羽 耕一



さて、制度的なことはさておきまして、私は理事に就任するまで新樹学園（楽園）の所在地は肝付町後田にあるものと思っていましたが、鹿屋市星塚町に移転し、かつ、名称も新樹学園から新樹樂園に変わっていることにびっくりしました。新所在地にはまだ1度も行ったことがないので、理事になったことを契機にぜひ訪問してみたいと思っています。

天上会の組織については、グループホームなど在宅サービスの事業数が増えているとリーフレットにて確認いたしました。また、機関紙「ひろば」を読んで職員の皆さんのがさまざまな想いで支援者の目線に立って支援に取り組んでおられることに胸を打たれました。今後も難儀なことに直面したときこそ、常に笑顔で対処していただきたいと思うところです。

私も理事として先輩理事、監事のみなさんの意見を拝聴しながら職員の皆さんと一緒にになって職責を果たして参りたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

評議員 野元 美佐子



数多くの施設の中で、私がどうしても新樹樂園をと、希望したのは、河野和子先生が語っておられた『「ジェントル・ティーチング』の精神で運営しています。』との言葉によるものでした。訳すと“力に依らない極めて平和的な技法である穏やかに温かく静かに接しながら肯定的感情を築いていくこうとするものである”という意味になるようです。天上会の数々の事業がこの精神に基づいて運営されていることに深い信頼を寄せております。

障がい故に“普通”が出来ない人たちが「ジェントル・ティーチング」の精神に守られ、幸せに愛されて過ごす事が出来ますようにと願って、ほんのひと筋の糸のような私の役割が果たせたら嬉しいです。

支える人

第4回

西国領先生とはなのこ園、めぶき園との関わり

西国領歯科医院 副院長・日本障害者歯科学会認定医・エンドオブライフケア認定援助士・日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員・日本小児歯科学会会員・日本小児口腔外科学会会員・東京臨床小児歯科研究会会員・新生児口腔ケア研究会会員・小児在宅歯科研究会会員・鹿児島在宅小児歯科医療研究会会員

西国領 俊子 先生



私は、「はなのこ園」では口腔ケアと摂食を、「めぶき園」では摂食と偏食を診ています。

人の摂食機能は、生後学習しながら発達・獲得されていくもので、持って生まれた機能ではなく、家族と共に育児に関わる方々の愛情の下で育まれていく機能です。摂食機能発達には順番や決まりごとがありますが、全ての子供達がその決まり通りにいくとは限りません。おもちゃを舐めたり噛んだりする経験の積み重ねや、離乳を通して学んでいく過程の中で、つまずいてしまうこともあります。身体や言葉の発達に個人差がある様に、摂食機能の発達にも個人差があり、急がずゆっくりその子の「おいしい」を見つけて欲しいと思います。

摂食機能発達支援は、食物を感じ動くを繰り返して積み重ね、安全に食事をするため一生使っていく「食べる仕組み」を覚える大切な支援です。

子供達は、成長しながら身体が変わっていく様に口の中も変わっていきます。その変化で上手に食べられるようになったり、逆に難しさに繋がっていくこともあります。

それを見据えた発達支援ができ、支援方法を選べるように「はなのこ園」や「めぶき園」の子供達を診て、生活の場である家庭では家族と安全に楽しくおいしくちょっとだけ勉強、園では食べることの勉強をしながらお友達との時間の共有と楽しみに分けて考え、各園の職員の方々へお伝えしています。

また、食は身体の栄養だけでなく心の栄養でもあり、一緒に食べる人との関係を食べ、絆を作ります。生涯にわたって生命や心を育み続ける摂食機能は、乳幼児期にその基礎が育ちます。育児に関わる人の支援が食を意識したものであることを願っています。

身体的発達成長は、心理的情緒的な発達成長と切り離せませんが、子供達を診ていると、摂食機能発達では特にこの相互関係の強さを感じます。

食べることを単に口の機能としてだけで捉えず、口が動いている、咀嚼、食べる量など目に見えることだけではなく、目に見えないもっと大切なことや「美味しいものを口にした時のあの笑顔」を「はなのこ園」や「めぶき園」で皆さんと見つけていけたら幸いです。



法人・事業所報告

社会福祉法人 天上会

天上会法人まつり（秋まつり）

秋祭り実行委員長 松長 敏成

令和元年10月5日、天上会本部ふれあいホール園庭にて、令和初の天上会「秋まつり」を開催しました。例年は夏に「夏まつり」を開催してきましたが、台風等の天候の心配や、季節柄夜も暑く過ごしにくい事などの課題があり、開催の時期を含め多くのことを実行委員会で話し合い、時期をずらして「秋まつり」として開催することとなりました。

当初は9月21日に開催予定でしたが、あいにくの雨（台風の影響）となり予備日としていた10月5日に延期し、開催する運びとなりました。10月も天候の不安がありましたが、いざ当日が近づいてくると雨雲はすっかり影をひそめ、爽快な秋晴れの下で舞台を組み立て、テントを張り、提灯を飾ったりと会場の準備を行ない、無事に当日を迎える事が出来ました。

秋まつり当日は、国見保育園の園児の皆さんによる和太鼓に、鹿屋市マジック同好会の方々によるマジックショー、星塚敬愛園の利用者様、職員の方による三線や



エイサーの披露、志布志で活躍しているよさこいグループ「志布志楽結舞（らいぶ）」による演舞をはじめ、天上会各事業所の利用者の皆さんも舞台上に上がり、楽しそうに歌つ

たり踊ったりして下さいました。演目はそれぞれの特色が表れており、利用者様の楽しそうな表情と迫力とが相まって、とても見ごたえがありました。

大抽選会では、理事長が抽選券を引いて読み上げるたびに喜びの声や落胆の声も…

最後は会場が一体となった盆踊り…、利用者様も来場の皆様も一緒に、最後まで手を取り合いながら、同じ時間を過ごすことができたのではないかと思っています。

実行委員長として至らないところが多かったと思いますが、ボランティア・保護者の方々、他の実行委員のメンバー・職員の皆さんなど大勢の方の協力があり、今回の秋まつりを開催することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。



こども発達支援センター めぶき園

Boon Boon Festa 2019

保育士 牧 かれん

令和元年6月22日（土）、鹿児島市民文化ホールで施設文化祭「Boon Boon Festa 2019」が開催され、めぶき園・るうと・はなのこ園・めるはな卒園生総勢60名で出演しました。



「パブリカ」・DA PUMP「USA」のダンス、ゆず「夏色」・Mr.Children「Not Found」のエアギターのバンドを披露して会場のみなさんと一緒に盛り上がりいました。

未就学さん達は元気いっぱい可愛さ爆発で楽しんでダンスを踊り、学童さん達はみっちりと練習を積んだ成果を堂々と披露し、たくさんの拍手をもらいました。披露している時の子ども達の表情は、緊張も混じりながらやる気や希望に満ち溢っていました。みんなの笑顔が溢れた1日となり、子ども達にとって素敵な経験になったと思います。



生活介護事業所 わたぼうし

活動報告

生活支援員 榎井 明希

わたぼうしは、もともと新樹学園の通所生活介護として始まりました。平成29年に新樹樂園（移転に合わせて学→楽に名称変更）が鹿屋の地へ移転するのに伴い、「生活介護事業所 わたぼうし」として、本部を置く肝付町後田の地に根を張りました。

わたぼうしも2年目を迎え、定員20名で活動しております。活動内容は、午前の歩行に始まり、午後は創作活動・リサイクル・体を動かそう・クッキング・カラオケなど「その人がその人らしく過ごせる時間」を大切にし、明日も行きたいと思えるような事業所を目指し、一人ひとりみんなが主役で、その人のペースにあわせて、あせらず共に一步ずつ前に進めるよう家族はもちろんのこと、関係機関と連携しながら支援していきたいと思います。



新樹樂園

こじか号来園

サービス管理責任者 谷山 ゆうこ

8月20日～23日の4日間、鹿児島県歯科医師会こじか号の巡回診療が4年ぶりにあり、新樹樂園利用者全員とわたぼうしの利用者1名の方々の歯や口腔内の状況を診て下さいました。

普段病院受診の難しい方々も丁寧に診て下さり、虫歯治療や歯石除去をして頂きました。一人ひとりの口腔内状況への的確な助言を頂き、職員へのブラッシング指導も行って下さる中で、利用者の口腔状態は「とてもきれいな状態です。」とお褒めの言葉も頂き、今後の口腔ケアへの取り組みにとても励みになりました。

最終日の「口腔ケア研修会」には近隣の障害者施設からも沢山参加して下さり、支援者を対象に口腔保健センター・センター長 上橋先生より講話をして頂き、虫歯や歯周病が身体に与える影響を実際の写真を使って丁寧に説明されて口腔ケアの大切さを改めて知ることが出来ました。

今後も利用者の皆様の健康を維持するために、「きれいなお口」を続けていけるよう頑張っていきたいと思います。



Hand in Hands vol.2

利用者の皆さんへの支援や活動への取り組み、ライフステージにおける天上会の関わりを紹介します。

現在「障害福祉サービス事業所カイロス」の就労継続支援B型を利用されている、小島ファミリーと天上会との関わりをご紹介します。



小島ファミリーと天上会との関わり

ファミリーのそれから…

平成23年3月、カイロス(就労継続支援B型)では一組のカップルが生まれ結婚。そしてその夫婦に平成25年3月に男の子が誕生しました。ご夫婦はその後もカイロスを利用され、居宅介護やご家族の支援をうけながら(この9月よりお母様は障がい者雇用で天上会の職員となった)、現在も家族3人で仲睦まじく暮らしています。



そして今年の4月より子供の小学校入学を機に鹿屋市から肝付町へ引っ越し、天上会所有の一軒家を借り新たな生活を始めて



います。現在、お姉さまが成年後見人となり金銭管理を行い、居宅介護サービスや天上会職員などのサポートを受けながら(特に学校からの案内文などの確認など)、家族3人の生活を営んでいます。

Q & A そんな小島ファミリーに、今の生活、これから的生活について話を聞いてみました。

Q 鹿屋からこの家(肝付町)に引っ越してきてどうでしたか?

A うれしかった。お風呂が広くて、家が広いから。(子)

A 鹿屋ではマンションで暮らしていたので、上階の人の足音とかが聞こえたり騒がしかったけど、ここは静かでいい。(母)

A はじめは慣れなかった(疲れなかった)けど、今はいいよ。(父)

いる。(父)

A 学校も近くで、毎日父が送っていく。学校が終わると学童へ行く。先生たちも良くしてくれて、連絡帳で分からぬことや連絡があるときには書いている。学校からの書類や手続きなどで分からないことも多くあるが、施設長や職員が説明してくれるので安心。(母)

Q 家族で暮らしていく、いいなと思うところは?

A 子供とサッカーやキャッチボールをして遊んだりして楽しく過ごせる。夏休みには、クワガタを探った。子どもが一緒に草取りもしてくれるので、一緒に暮らしていいなと思う。(父母)

Q これから不安なことは?

A やはり子育てに不安がある。子どもが上級生になると、今は何とか教えられているが、自分たちも勉強が苦手なので分からぬところを教えられなくなってしまうのが不安。そうなったときに勉強を教えてもらえたならありがたいなと思う。(母)

Q 天上会のサポートを受けながら生活することについて

A 職員がそばにいてくれるので、色々聞けて助かって

成年後見人のお姉さまの想い

小島ファミリーのキーパーソン

成年後見人をまさか自分がするとは思っていなかった。自分も勉強させてもらって難しい反面楽しみもある。肝付町に移り住んで、とても家族がのびのびと暮らしていると感じる。そして、特に母親が“親としてしっかりしないと。自立しないといけない”という気持ちを示してくれるので、お金を計画的に使ってもらうことに難かしさを感じるところはあるが母親も頑張っているので、私も一緒に成長できたらと思う。子どものことも大きくなるにつれて心配だが、将来のことを不安がって仕方がないので、とにかく今できることを少しずつやっていければと思う。

今、弟家族を、居宅介護のヘルパーさん、学校の先生、天上会の職員さんが支えてくれているので、自分たちにできないこともたくさんあり、とても助かっている。夫婦が仲良く、子どものことを考えながらこれからも生活できたらと思う。

今後とも、よろしくお願いします。

保護者さまの声

今回のインタビューは、新樹楽園とカイロスの保護者の皆さんです。ボランティア活動への取り組み、PRなどをうかがってみました。

新樹楽園保護者ボランティア

Q. ボランティアを始めたきっかけは?

A. 日頃の業務で忙しい職員さんや、来園が難しい家族、既に亡くなられた親御さんに代わって何かお手伝い出来ることがあればという気持ちで始めたのがきっかけです。お世話になったので、恩返しがしたいとの思いで、今でも参加して下さるご家族の方もいらっしゃいます。



Q. ボランティアの活動内容

A. 第3木曜日の午前9時～12時の間

内容は洋服の補正・ズボンのゴム通しや足ふきマット・雑巾縫い、花植えなど色々な活動をしています。職員の方から染め物をしてみませんか?と声を掛けで頂き自分たちで、色染めをしたのれんを販売した事もありました。

Q. ボランティアをする中で、何か楽しみはありますか。

A. 気心したれた皆さんと会話を楽しみながら縫い物をしたりする事が一番の楽しみです。

Q. 何かPRしたいことがありますか。

A. ボランティアを募集しています。

お友達も誘って一緒に楽しく活動しませんか?
一般の方も大歓迎です。



カイロス保護者ボランティア

8月9日、金曜日、午前11時、いつものように集まって下さったボランティアの皆さんとのころへお伺いしました。場所は本部、旧女性入所棟の一室です。教えてもらった部屋のドアの前に立ちましたが、音が全くしません。本当にここかな?と思いながらノックし、そっとドアを開けると、人が入ってきたのも気づかず、一心にミシンを操作している女性が3名。少し話を聞かせていただきました。

Q. いつもボランティアありがとうございます。始められたきっかけは何だったのでしょうか。

A. 保護者会で、「人手が足らなくて、困っている」という話をきいたことです。何か自分にできることがあれば…と思い始めました。もう5年以上になります。いつも、いろんな話をしたり笑いながらやっています。子どもの為と思って始めましたが、頭を使い、手を使うので認知症予防になり自分の為にもなっているように思います。

Q. ボランティアの内容を教えてください。

A. 毎月第2金曜日午前9時から12時のあいだで活動しています。

今日は口腔ケアで使う、おしぶり作りをしています。以前は、カーテン丈を合わせたり、入所のつくろいのものをしたり、カイロスの資金に貢献できたらとハーブを使った石鹼作りをしたこともあります。ハーブの先生に来てもらって、ハーブの庭を造ったり、草取りをしたり、ドクダミを取りに行ったり…楽しかったですよ。

Q. 現在の悩みは何かありますか。

A. 呼びかけてもなかなか人がこないことです。

勤めている方が多いので、平日はむづかしいのでしょうか。毎回でなくとも、都合がつくときだけでもいいのですが…。

Q. その他広報誌をつかってPRしたいことをどうぞ。

A. 元気なうちに参加しませんか。来れば楽しいですよ。後に続く人がいないので特に若い人に来てほしいです。



平成30年度会計報告

貸借対照表（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

資産の部		負債の部		純資産の部	
流動資産	418,399,158	流動負債	70,479,157	基本金	88,976,490
基本財産	680,355,762	固定負債	285,197,552	国庫補助金等特別積立金	266,103,170
その他の固定資産	167,127,790			その他の積立金	63,818,645
				次期繰越活動収支差額	491,307,696
資産の部合計	1,265,882,710	負債の部合計	355,676,709	純資産の部合計	910,206,001
		負債及び純資産の部合計			1,265,882,710

事業活動収支計算書（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

勘定科目		決算額
サービス活動増減の部	サービス活動収益計	630,656,905
	サービス活動費用計	588,957,522
	サービス活動増減差額	41,699,383
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計	4,864,718
	サービス活動外費用計	2,726,650
	サービス活動外増減差額	2,138,068
特別増減の部	特別収益計	466,003
	特別費用計	69,780
	特別増減差額	396,223
当期活動増減差額		44,233,674
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	471,374,022
	当期末繰越活動増減差額	515,607,696
	その他の積立金取崩額	700,000
	その他の積立金積立額	25,000,000
次期繰越活動増減差額		491,307,696

Special
Thanks

秋まつりにあたり金品等のご寄付を頂きましてたいへんありがとうございました。
ここに謹んで感謝の意を表しますとともにご芳名を紹介させていただきます。

- 南日本飲料様 ●南九州コカ・コーラ様 ●横山典礼様 ●富士ゼロックス様
- 星塚敬愛園 岩川 洋一郎様 ●陵北荘 平田 学様 ●小林会計事務所様

編 集
後 記

はじめは書きなれず聞きなれなかった「令和」も、今ではすっかり私たちの生活に馴染んできたように思います。そんな令和初の発行となる「ひろば秋号」に、今回広報委員長として初めて携わらせていただきました。記事を集めにあたり、天主会の運営する事業の広がりや、こどもから大人まで笑顔で集える行事が地域に根付いていることなどを、改めて感じることができました。障がいのある人もない人も、ともに生き共に暮らせる社会の実現に向けて地域とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思います。

最後になりますが、この度台風19号の被害にあわれた方々にお悔やみ申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。被災された地域に住まわれている方々、障がいのある方々は今どのような暮らしを強いられているのかと考えると、胸が苦しくなってしまいます。これほどまでに大きな災害が毎年のように発生する昨今、災害に対する対策・備えの必要性や、地域とのつながりがより大切なのだ、と考えさせられてしまいます。（松元竜二）

広報委員：前田、松元、城野、宮崎、倉園、枝元（翔）、樹井、牧、藤井